

## 佐栄建設事業協同組合の第16回通常総会が開催される

2019年5月17日（金）、佐藤工業の中核的専門業者で組織された佐栄建設事業協同組合の第16回通常総会が、東武ホテルレバント東京において開催。

来賓として佐藤工業から宮本社長、谷口土木事業企画部長、庄子建築事業企画部長が出席され、祝辞や挨拶をいただきました。

総会には組合員数95名のうち委任状出席を含め80名が出席。廣井理事長（広井建設社長）の議事進行のもと、2018年度決算、2019年度事業計画・予算、組合解散の件、清算人及び監事選任の件などが審議・承認されました。



### <組合解散について>

当組合は、佐藤工業と取引関係を有する中核的専門工事会社が団結して、経営改善事業の諸事業を共同で運営することにより、組合員企業の経営力向上をめざし、相互扶助精神により共存共栄を図ることを目的に2003年9月に設立。中核的事业である①共同購買事業、②経営改善等に係る調査・研究事業、③資金貸付に関する事業を計画的に展開してきました。しかし経済状況や経営環境も大きく変化してきており、昨今は教育・情報提供に関する事業のみになりつつあるのが現状です。よって設立当初の目的・役割は達成できたものと、今般発展的解散が審議・承認されました。

なお、総会終了後に第1回清算人会が開催され、今後解散手続きが進められていきます。

### 宮本社長 祝辞(要約)



国内経済の先行きについて政府は、雇用・所得環境の改善が続く中で緩やかな回復が期待されるとし、好調な企業収益を投資の増加や賃上げ・雇用環境の改善等につなげ、経済の好循環を拡大すると述べています。このような中、業績好調の建設業界ですが、労働者の高齢化や若年層の建設業離れによる「担い手の確保・育成」は、喫緊の課題です。他産業以上の賃金水準を確保し、現場環境を改善することにより、魅力的な産業へと変革していかなければなりません。当社では「週二閉所実現部会」を立ち上げ、時間外労働の削減や休暇取得の促進等を積極的に実施しており、今年度からは「4週6閉所」を目標に取り組んでいます。また近年、世界各国で気温の上昇や台風の大型化等、異常気象が多発しています。当社は建設会社として、震災の復旧や防災・減災につながるプロジェクトに積極的に参画し社会貢献に努めるとともに、企業価値を高めるため知名度向上やイメージアップにも取り組んでいきます。安全成績については前期と同水準で推移していますが、災害総件数を減らす努力が安全・安心の確保に加え、働く人の処遇改善にもつながるものと信じています。日々の安全衛生活動の推進にご協力をお願いします。

### 谷口土木事業企画部長 挨拶(要約)



今期受注は順調に推移しており、重点的に取り組んでいるトンネル工事では山岳トンネル3本・シールドトンネル2本、特に中央新幹線第一中京圏トンネル(大針工区)をスポンサーで受注し、「トンネルの佐藤」という位置づけを継続できています。計画から完了に至るまで皆さんと一致協力して、高品質で顧客満足度の高いモノづくりに貢献したいと考えますので、変わらぬご支援をお願いします。建設業は常に危険と隣り合わせの仕事です。事故防止のため、現場パトロール等を通して一人ひとりに声かけをして注意喚起をお願いします。「働き方改革」については、団塊世代の大量離職が見込まれ中、災害対応やインフラ整備・メンテナンス等の役割を果たし続けるためにも、一段と強化して将来の担い手を確保していく必要があります。当社では今年度は4週6閉所をめざし、生産性向上のための最先端 ICT・機械化・自動化・工業化技術の開発・活用を推進しています。建設業界全体のためにご協力をお願いします。

### 庄子建築事業企画部長 挨拶(要約)



現在建設産業は、担い手の確保・育成に向けた働き方改革と処遇改善、生産性向上の取り組み、そして海外からの労働力取り込み等により、産業基盤の強化が求められています。当社では週二閉所アクションプログラムを策定。建築ではその具現化に向け「生産性向上委員会」を開催し、工場生産等の促進、ICT建機・施工ロボット等先進技術の活用、優良な職長の確保・育成による歩掛アップ等に取り組んでいます。建設業界の存続をかけた取り組みとの認識を共有いただき、ご協力をお願いします。「高い収益力と人材を合わせ持つ組織」を今期の本部長方針として取り組み、ラストスパートを迎えています。中核事業として他社との差別化が図れる市街地再開発、アリーナ、環境プラント、高層住宅等の大型案件が、稼働中もしくは着工を予定しています。働き方改革・生産性向上と併せてステークホルダーの期待に応える実績を上げていきたいと考えますので、引き続きご支援・ご協力をお願いします。